

# Press Release

2026年4月24日



横浜美術館  
YOKOHAMA  
MUSEUM OF ART

没後 110 年

## 日本画の革命児 今村紫紅

2026年4月25日（土）～6月28日（日）

A Retrospective Commemorating the 110th Anniversary of the Artist's Death  
“Imamura Shiko: A Revolutionary Innovator of Nihonga”



今村紫紅《枇杷二葉》絹本着色、一幅〔図は部分〕、  
大正2年〔1913〕、121.2×41.3cm、横浜美術館所蔵

## 概要

明治の末から大正初期に活躍した画家・今村紫紅（1880-1916）の42年ぶり、かつ公立美術館では初の大回顧展です。平安時代から続く伝統的なやまと絵を学び、若くして歴史画において高い技量を示した紫紅は、やがて、日本画の革新を志します。琳派の俵屋宗達などの自由闊達な絵に刺激を受け、さらに南画（中国・江南地方の絵画に影響を受けて江戸後期に栄えた山水画）や、西欧の印象派などの新しい表現も取り入れて、風景画に強烈な個性を発揮しました。《熱国之巻》や《近江八景》（いずれも国指定重要文化財）に代表される、思い切った筆づかいと構図、明るい色がその特徴です。35年の生涯を力強く駆け抜けた今村紫紅の創作の軌跡を、初公開作品を数多く含む約180点を選びすぎり、4章構成でたどります。なお、各章のタイトルは紫紅自身のことばから採られています。

第1章 「古画のよい処を分解して、その後を追え！」

第2章 「絵画は矢張<sup>ヤハリ</sup>多方面に描け！」

-1 三溪との出会い

-2 紫紅と琳派

第3章 「自由も、新も我にあり！」

第4章 「暢気<sup>ソンキ</sup>に描け！」

## みどころ

### 1. 42年ぶり、公立美術館では初の大規模な回顧展

昭和59年（1984）に山種美術館で開催されてから42年ぶり、公立美術館では初の大規模な紫紅の回顧展です。

### 2. 紫紅の全体像に迫る決定版となる展覧会

国指定重要文化財を含む紫紅の代表作をはじめとする、約180点が一堂にそろう、またとない機会です。

### 3. 初公開の作品多数

個人のコレクションから約40点の作品が初公開されます。

## 展示の構成

### 第1章 「古画のよい処を分解して、その後を追え！」

明治13年（1880）、今村紫紅は横浜の提灯問屋に生まれました。17歳で上京し、歴史画の大家の松本楓湖に入門します。師のもとで粉本（古典的な画題や筆法を習うための手本）を徹底的に模写し、郊外の写生にもつとめ、本格的に日本画の修行をはじめました。ほどなく、創立まもない日本美術院の展覧会で賞を得るなど、歴史画の分野で頭角をあらわします。この章では、模写などを通して「古画のよい処」を吸収しつつ、新しい歴史画の開拓をめざした青年期の模索の様子をたどります。



《鞠聖図》紙本着色・二曲屏風一隻  
明治44年（1911）  
147.4×145.6 cm 横浜美術館

### 第2章 「<sup>ヤハリ</sup>絵画は矢張多方面に描け！」

#### -1 三溪との出会い

#### -2 紫紅と琳派

日本美術院の有望な若手メンバーとなった紫紅は、創立者の岡倉天心の教えや、先輩画家の横山大観、下村観山、菱田春草らの制作に大きな刺激を受けます。いち早く俵屋宗達などの琳派や、中国の明清時代の古画にも着目し、創作の幅をひろげていきます。また文展に出品した《護花鈴》が、桃山文化に傾倒していた横浜の実業家・原三溪の目にとまり、三溪の支援が決まります。この章では、三溪の力強い援助を得た紫紅が、古画の本質を見極めて、さまざまな主題に取り組み「多方面に」描いた作品を紹介します。



《護花鈴》  
絹本着色・六曲屏風一双（図は部分）  
明治44年（1911）  
各170.2×364.4 cm  
霊友会妙一コレクション  
（展示期間：4月25日～5月8日）



### 第3章 「自由も、新も我にあり！」

三溪の支援を得て生活が安定した紫紅は、画業の転機となる《近江八景》を発表します。古来名所絵に描かれた琵琶湖周辺を旅し、写生にもとづいた風景画として描いたものです。明快な色と構図には、古典的な風景画の慣例に囚われないのびのびとした心境が表れています。翌々年にはさらに新境地を求め、病後にもかかわらず、インドへと旅立ちます。道中で見た光景を絵巻に描いた《熱国之巻》は、日本画のジャンルに収まらない問題作として、賛否を巻き起こしました。この章では、芸術の「自由」や「新」は他者の中でなく「我にあり」と語った紫紅の、果敢な挑戦をたどります。



《熱国之巻（朝之巻）》紙本着色・一巻（図は部分）  
大正3年（1914） 45.7×954.5 cm 東京国立博物館  
※国指定重要文化財  
（展示期間：4月25日～5月20日）  
※《熱国之巻（暮之巻）》は5月22日～6月3日の展示  
Image: TNM Image Archives

### 第4章 「<sup>インキ</sup>暢気に描け！」

再興日本美術院の中心的存在となった紫紅は、後輩たちを導き、日本画の革新に尽くしました。理想と考えたのは、若い画家が生活に困ることなく、自由快活に、描きたい絵を追求できること、すなわち「<sup>インキ</sup>暢気に描け」る環境でした。後輩たちとの研究会「赤曜会」は、その実践の一つでした。一方で自らは、古臭いものとされていた江戸時代の「南画」を再評価し、「新南画」ともいべき作風を展開しつつありました。池大雅や富岡鉄斎の生氣ある絵に新味を見出し、彼らが学んだ明清絵画の研究にも打ち込みました。さらにこの時期の作品には、同時代の西洋絵画の影響もうかがえます。この章では、老成をも感じさせる晩年の紫紅の画境の深まりを探ります。



《潮見坂》  
絹本着色・一幅 大正4年（1915）  
112.5×42.0 cm  
横浜美術館

## 展覧会グッズ

定番グッズからトレンドアイテム、老舗とのコラボまで、幅広いラインナップで紫紅の世界に浸ってみませんか

紫紅の作品に登場する、幸運の鳥「ウソ」と鞠を抱いた鞠の精の「さる」のふわもこチャームや、老舗菓子店《塩瀬総本家》とコラボした、展覧会限定パッケージの蒸し饅頭と最中が登場します。お土産にもおすすめです。



ふわもこチャーム 各 2,200 円 (税込)



塩瀬総本家 蒸し饅頭 1,350 円 (税込)



## 音声ガイド

ナビゲーターは、紫紅と同じく横浜市出身の向井理さん（俳優）



### 向井さんのコメント

このたび、「没後 110 年 日本画の革命児 今村紫紅」の音声ガイドナビゲーターを務めさせていただきます、向井理です。

今回は私が生まれ育った横浜での開催にご縁を感じています。

また、横浜美術館は 2011 年のヨコハマトリエンナーレでも取材させていただきました。震災後の混乱していた時期に当時の総合ディレクターの方と対談させていただき感銘を受けたことを覚えています。

国内外の文化に触れる最前線であり続けてきた港町、横浜。紫紅を育んだこの街の空気感も感じながら、ぜひ紫紅の世界を存分に味わってください。

貸出料金：1 台 650 円 (税込) ※アプリ配信版「聴く美術」配信価格：650 円 (税込)

### プロフィール

横浜市出身。2006 年俳優デビュー以降、NHK 連続テレビ小説『ゲゲゲの女房』（10 年）等話題作に多数出演。

近年の出演作にドラマ『ライオンの隠れ家』（24 年）、映画『パリピ孔明 THE MOVIE』（25 年）、舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』（22 年）などがある。



カフェメニュー（馬車道十番館 横浜美術館 喫茶室）

## 「SHIKO パフェ」 1,320 円（税込）

日本伝統のやまと絵を礎として日本画の革新を追い求めた今村紫紅の絵の世界を、抹茶パフェで表現しました。紫紅の名のとおり「千紫万紅」、カラフルな作品を得意とした紫紅の絵のエッセンスを、鮮やかな抹茶の色やかわいいトッピングで表しました。館内にある「馬車道十番館 横浜美術館 喫茶室」のオリジナルメニューです。



SNS 連動企画 #きものでいこう、しこう

会期中、きもの（和装）を着用して来場し、来館当日中に美術館公園口の「大しかく看板」前で撮影した写真を、X または Instagram にハッシュタグ「#きものでいこう\_しこう」と「#今村紫紅展」を付けて投稿いただいた方に、オリジナルポストカードを1枚プレゼントいたします。ぜひお気に入りの一枚を撮影して、SNS でシェアしてください！詳細は横浜美術館公式ウェブサイトまで。



お渡し場所：横浜美術館内 総合案内

※数量限定、なくなり次第終了。絵柄はランダムでのお渡しになります。

関連イベント

会期中、本展に関連したイベントを開催します。詳細は公式ウェブサイトまで。

### 1. 学芸員によるレクチャー 「今村紫紅の画業」

日時：2026年5月8日（金） 14:00-15:20（開場 13:40）

講師：内山淳子（当館主任学芸員[本展企画担当]）

作品や展覧会をより深く楽しんでいただけるよう、学芸員がレクチャーを行います。

当日 11 時より「総合案内」付近で整理券を配布します。整理券はおひとりにつき 1 枚です。

（参加費無料、事前申込不要）

### 2. 学芸員によるスライドトーク

日時：2026年5月15日（金）、5月29日（金）、6月5日（金）、6月12日（金）

14:00-14:40（各回異なる内容になります）

展覧会の見どころを本展担当学芸員がリレー形式でご紹介します。（参加費無料、事前申込不要）

**3. 柏木副館長の指令！紫紅の謎を追え！ ※申込終了**

日時：2026年5月5日（火・祝）、5月10日（日） 14:30-16:30（全1回、各回同じ内容です） 申込締切：4月24日（金）  
 講師：柏木智雄（当館副館長・主席学芸員）、当館エディタター  
 35歳という若さで亡くなった紫紅の作品には、多くの謎が残されている。そこで、柏木副館長の指令のもと、作品をくまなく調べる調査隊を大募集！君も紫紅の謎に迫ろう！

**4. <sup>インキ</sup>暢気に描け！合作絵巻－重野克明とめぐる今村紫紅の世界 ※参加者募集中**

日時：2026年5月24日（日） 13:30-16:30 申込締切：5月7日（木）  
 講師：重野克明（美術家）、内山淳子（当館主任学芸員[本展企画担当]）  
 展覧会担当学芸員のナビゲートのもと、美術家・重野克明さんの視点を通して紫紅の自由な表現世界を味わいます。後半では、《東海道五十三次絵巻》に倣い、参加者全員で一巻の“絵巻づくり”に挑戦します。

開催概要

**没後 110 年  
日本画の革命児 今村紫紅**

会場 横浜美術館（神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1）  
 会期 2026年4月25日（土）～6月28日（日）  
 開館時間 10:00～18:00（入館は閉館の30分前まで）  
 休館日 木曜日 ※4月30日、5月7日は開館  
 主催 横浜美術館、毎日新聞社、TBS グロウディア、神奈川新聞社、tvk（テレビ神奈川）  
 特別協力 丸栄堂、東京国立近代美術館  
 協力 みなとみらい線  
 後援 TBS ラジオ

ウェブサイト URL：[https://yokohama.art.museum/exhibition/202604\\_imamurashiko/](https://yokohama.art.museum/exhibition/202604_imamurashiko/)

■観覧料（税込）

一般：2,200（2,100）円  
 大学生：1,600（1,500）円  
 中学・高校生：1,000（900）円  
 小学生以下無料

※（ ）内は有料20名以上の団体料金  
 団体は有料20名以上の料金（要事前予約 [TEL:045-221-0300]、美術館券売所でのみ販売）  
 ※障がい者手帳をお持ちの方と介護の方（1名）は無料（ミライロID可）  
 ※同時開催する横浜美術館コレクション展「みる風景、かんがえる風景」、  
 「アーティストとひらく 鎌田友介展：ある想像力、ふたつの土地」も、  
 「今村紫紅」展チケットで観覧当日に限りご入場いただけます。

次回展覧会

第60回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館帰国展 毛利悠子 Recompose	2026年7月24日（金）—11月23日（月・祝） ギャラリー9
マリー・アントワネット・スタイル	2026年8月1日（土）—11月23日（月・祝）

---

横浜美術館 〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 3-4-1

TEL: 045-221-0300 FAX: 045-221-0317 <https://yokohama.art.museum>

お問合せ先 横浜美術館 広報担当（岩見屋、志谷、高野）

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 3-4-1

TEL : 045-221-0319 FAX : 045-221-0317 Email : [pr-yma@yaf.or.jp](mailto:pr-yma@yaf.or.jp)

プレス画像申込はこちら

みなとが、ひらく  
THE PORT IS OPEN